

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑬子どもの生活面における対応

- ◆ 子どもの生活面における対応と一言で言っても、生活の場所を整えるだけでなく、所在確認、健康管理、心身の状況観察、設備やおやつ提供時の衛生管理など、あらゆるところが対象で、改めて大変だと感じた。食に関しては、食中毒やアレルギー食品の誤食などが発生しない管理体制を構築するのはもちろんだが、発生したときの役割分担などを整えておくのも必要なことだと思った。いざというとき、適切な対応ができるよう、支援員同士で確認し合うなど、しっかり話し合いたいと思った。
- ◆ 今まで食に関するトラブルに遭遇したことがなかったので、あまり意識をしてきませんでした。食中毒、感染症、食物アレルギー等を詳しく学び、もしそうなったらと思うと怖くなりました。学校、職場、親との情報共有を密に取り、あらゆる場合の対処法を職員間で話し合い、役割分担を決めておくことが大事であり、私自身も持ち込まない努力を怠らないことが、子どもたちの安心安全な居場所に繋がるとわかり、改めて、衛生管理の重要性を感じました。
- ◆ ヒューマンエラーは絶対にあるのだから、これをどう対応するかを改めて職場で確認したいと思えた。子どもたちの普段を知り、支援員の中でしっかり共有を心がけようと更に思えた。子どもたちに出しているおやつも、買って来たものだしと安心するのではなく、様々な菌が様々な場所にあることを理解し、つけない・増やさない・滅菌するを心がけたい。アレルギー対応については、エピペンやアレルギーを持っている子について、しっかり理解しなければならないと感じた。
- ◆ 食育は、食に関する正しい知識と食習慣を身につけることが大切と思っていたが、それだけでは足りず、楽しく食事できる場所をつくることも大切であることに気づかされました。子どもたちが気の合う者と一緒に食べることがいいと思っていましたが、一緒に食べることができず悲しい思いをする子どもがいないように気をつけていきたいと思いました。
- ◆ 私の働く児童館では、エピペンを持参しているお子さんが2人利用しています。その他にも、食品にアレルギー反応を起こすお子さんが5人います。おやつの準備は2人対応で行い、その後もその日いる人たちでチェックを欠かさないようにしています。それでもヒューマンエラーは起こるものだと意識し、起こったときはどうするのか予め役割分担をして対応方法等をシミュレーションしておきたいと思いました。